

「人間」—いのちを見つめて 「人間」—いのちを見つめて

現代社会に広がりつつある不寛容を問い直す映画監督・作家の

～ 森 達也さんを囲んで ～

97歳になる今も戦争体験とりわけ加害体験を語り残そうと精力的な元日本軍兵士の絵鳩毅さん、現代日本社会のなかで“フツウの人間”が引き起こす狂気に警鐘を鳴らされている映画監督の森達也さん（オウム真理教信者の日常を追ったドキュメンタリー映画「A」「A2」を監督）とのトークセッション！ 「過去」と「現在」を見つめ直す貴重な機会に是非ご参加下さい！

第1部：戦争犯罪人から人間への軌跡

絵鳩 毅さん（97才） 元中国帰還者連絡会会員



第2部：世界はもっと豊かだし、

人はもっと優しい

森 達也さん 作家・映画監督



<日時> 11月7日（日）13時開会

（12時30分開場 16時 終了予定）

<場所> かながわ県民センターホール（2階）（横浜駅から徒歩5分）

資料代 500円（学生は無料です）

* 高齢の証言者の体調の事情によってはビデオ証言とさせていただきます。

<主催> 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部（連絡先 松山 TEL 046-871-4263）

<後援> 神奈川9条連

証言集会について

絵鳩 毅さんは、戦争体験4年・シベリア抑留5年を経て、中国の撫順戦犯管理所で戦犯として6年を過ごされました。寛大政策に基づいた管理所の再教育プログラムを通じて自身の戦争犯罪に正面から向き合い、深く反省して、平和の担い手となることを誓いました。真摯な認罪と反省が中国側に受け入れられて起訴免除となり、日本に戻ってから自らの過去を反省し続け、一貫して日中友好と反戦平和の活動を続けられています。

一方、**森 達也**さんは、オウム真理教信者らの日常を追ったドキュメンタリー映画「A」を監督されて以来、ともすれば国民全体が一方向に向かって行きがちな日本の社会に対して、さまざまな角度から警告を発しておられます。最近では死刑問題に関して、北欧の寛容化政策を日本に紹介し、世論調査で死刑容認が圧倒的多数を占める日本社会に対して、別の方向からのアプローチを提起されています。

ここ数年厳罰化に向かっている社会の流れに対して、「それでいいのか」と訴え続けているお二人のお話をお聞きして、一緒に考える機会が持てればと企画いたしました。

多くの方々のご参加をお待ちいたします。

*かながわ県民センター玄関ロビーからエスカレーターで2階へお出ください。

